

# 進化していくこと

進化はウイルスのみならず！！



# はぐるま

最近の出来事は世界的

規模で起きます。金融

危機から始まり新型ウ

イルスと大騒ぎ。人類

が自ら創り出した社会

は自然の力の前では無

力なのでしょう。

地球誕生からウイルス

は生物の大先輩で、

どのような環境下でも

姿形を変えながら生き

ていく生物界の支配者

と言われています。

さて今は幸い

ウイルスもおとなしく

してくれています。

今秋はまた

復活をするのではないかと、言われています。

ここ数年、はぐるまの仲間・職員の中で、イ

ンフルエンザにかかる人が、何人か出ています

ので、今回の新型には十分気を付けて対応し

てきました。

手洗い・うがいは日常習慣として徹底してい

くことに加え、消毒用アルコールを常備しま

した。マスクは販売店が売り切れ騒ぎになつて

も、備えている施設が多かったので、全施設に

配ることができました。

また作業所の販売活動自粛等、外に出るこ

とを極力控えました。これから、環境整備に

加え、抵抗力のある体づくりを心がけ、常に

万全の対応ができるようにしていきます。

看護師さんも日ごろから、保健衛生・健康に

ついてのお話を、仲間向けにしてくださいませ

ます。

手洗い、うがいを習慣付ける難しさ

看護師 江口 成子

はぐるまの勤務も三年目を迎え、仲間も少し

ずつ私が作業所にいることを、特別な事と考

えなくなつたようで、私を見るなり病人にな

る仲間は少なくなりました。しかし仲間と過

ごす時間が増えるほど、対応の難しさを感じ

ています。その中でも最も基本である、

『うがい・手洗い』について、お話したいと思

います。

まず、毎日必ずきちんと行って欲しいので

すが、ほとんどの仲間ができません。

『うがい』は水を口に含むだけで吐き出してし

まいます。『手洗い』は水に手をつけるだけだっ

たり、石鹸は泡立てなかつたりで、十分ではあ

りません。

一緒に手を添えて洗うことを嫌がる仲間も

多いので、声をかけてはいますが、難しい状態

No. 44  
2009年6月1日

社会福祉法人  
はぐるまの会

広報委員会  
後援会

川崎市多摩区首馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

です。今回の新型インフルエンザや、季節型インフルエンザが流行しているときは、本当に不安になります。

次に気になることは、手足のつめや皮をはいで、食べる事。かなり多くの仲間に見られることに驚いています。先ほどの手洗い、うがいの話になりますが、「不潔なつめや、皮を食べることは、ばい菌を食べているのと同じだよ」と注意していくことを続けたいといけないと感じています。たぶん何年も……

それと口が半開きの状態で日常生活をおくっている仲間が多いことも気になっています。歯並びの悪さや習慣でそうなっているのですが、口は鼻と違い、鼻毛がないので、直接口の中にばい菌が入ってきます。また、40歳を過ぎた仲間は、だんだん唾液が出なくなっているため、口が渴きその状態で食事をした場合、固形物がのどに詰まりやすく危険です。通常食事を始める際、視覚で食べ物を感じ脳からの指令で口の中の唾液が増え、自然と食事をとる体制になるのですが、その連携がうまくいかない仲間がいます。これも食事の

前に何回もうがいをを行うことで、刺激がいくようになるので、今は問題のない仲間も、『うがい』で口の中の刺激を行えるよう、練習をしていきたいと思えます。

今年冬に、風邪を引かないためには、

《緑のなかまを食べよう》と題して、本物の野菜を見て学習をしました。工房の仲間はさすがに沢山の名前を知っていましたが、他の仲間にはなかなか名前が出てきません。

イラストを渡して、日常で(家に帰っても)緑野菜を食べて欲しいと話をしてきました。

今回は、夏に向けて、身体を丈夫にする《赤いなかま》について、学習をします。このような積み重ねの中で、仲間が身体にいいからと、食材を選んでくれるようになると思いますね。

今回は、通院していても自分が病気だという意識が持てないため、痛みを訴えられない、不調を伝えられないため、骨の変形や、足の裏の血行不良のため、硬くなったり、魚の目、タコができやすいなど、見えにくい病気につながる身体の変化について、考えていきます。

## 雨の「はぐるまバザー」とーにか

### 無事終了 報告

はぐるま工房

職員会実行委員長 福田 真

五月六日の「はぐるまバザー」は、降り続く雨の中での開催となり、仲間たちと計画していたイベントが大幅に変更となってしまいました。

今年度のバザーでは、お世話になっている地元のお店街のお店の方々を招待してより交流を深める事を目標とし、地域で暮らす仲間たちの姿をより多くの人たちに知ってもらおう機会となればと考えていたので雨で来客数が減ってしまったのはとても残念です。

今回のバザーでもリーダーを目指す若い仲間を中心として実行委員会を編成し、お店への出店依頼や品物の選定も行いました。初めての大役に戸惑う仲間や普段とは違った真剣な表情を見せる仲間など、今後の活躍に向けての良い経験となり、リーダーへの第一歩となりました。バザー終了後のささやかな打ち上げ会では、「また実行委員になれるように

がんばる！」と、明日からの生活の励みにして  
いる姿が印象的でした。

天候に泣かされてしまったのは残念でしたが、  
親の会の皆様や関係者の方々のおかげで、心  
配された売上の方は例年並みの金額を確保  
することができました。

また、今回参加して下さった商店街の皆様、  
あたたかいご支援、本当にありがとうございます  
ました。

このバザーがきっかけとなり、仲間たちの暮  
らす地域での交流がより進んでいく事を担当  
者として願っていましたが、自分たちが想っ  
ている以上に地域の人々が理解し、見守って  
くれている事をとてもうれしく感じました。

今後のバザーでも地域の交流の場として発展  
していけるよう、仲間たちと共に考えていき  
たいと思います。

## 土曜日クラブ 経過報告

平成19年10月よりスタートした、土曜日  
における作業所(普工舎)開所は、長期休暇  
や連休に自宅で過ごすことが難しい仲間達が、  
楽しく過ごせる場として、作業所を開放して、  
活動をしてきた実践を踏まえ、事業化され  
ました。

活動の主な内容は、運動・昼食作り・ビデオ  
鑑賞・カラオケ・野外活動として富士山清掃・  
花見会・地域のイベント参加。常に二十人前  
後の利用があり、仲間実行委員が運営してき  
ました。その支援はホーム職員の、中山・中村  
と、毎月の準備で普工舎の職員でおこなってき  
ました。一年経過時、担当職員が男性だけな  
ので、女性の仲間のために、同姓介護の必要性  
から、女性職員がローテーションを組み、一人  
加わることとなりました。

運営するにあたっての難しい点は、休日であ  
る土曜日を、様々な要求を持つ仲間たちの、  
どのレベルで集団活動を形成するかです。

支援者の創意工夫と多くの方々との協力が不  
可欠です。

今年の5月より、活動の骨格は従来通りです

が、より一層の充実と安全確保のために、支  
援員を増やし、関係者の技量を集結させてい  
く方向が、検討され、進行中です。

今までボランティアで踊りや、手品などで支  
援していただいた方々、夏の暑い中スイカや果  
物、アイスクリーム・お菓子、CDなど提供し  
てくださった、地域の皆様、保護者の方々に紙  
面をお借りして、御礼申し上げます。

ありがとうございます。今後も土曜日のみ  
ならず、日曜祭日には、多くのご支援が必要  
ですのでよろしく願い申し上げます。

(中山 俊男)

## 人事報告

○土曜日 担当職員が変わります

中山俊男さん

中村義一さん

お二人には、土曜日活動の定着のため頑張っ  
ていただきました。ありがとうございます。  
またお力を借りることがあるかと思いますの  
で、よろしく願います



新しく四人で担当いたします。

池田 紋子さん(菅工舎)

谷田部 利寛さん(みどりホーム)

吉武 誠一さん(いずみホーム)

西岡 二美代さん(いずみホーム)

### ○新採用 菅工舎職員

佐々木 綾太さん

28歳！若い力を十分発揮され、仲間と共に活動に汗を流し、大きく成長してくれるものと期待しています。(名前はアヤタと書いてりょうたと読みます)

### 理事会報告

5月30日 第33回 理事会・評議会がありましたので、報告いたします。

## 20年度事業報告

**Q** 障害を持った方たちの、文化的活動は具体的にどのようなことがされていますか。

**A** 報告書では、具体的な活動が詳しく書かれていませんでしたが、作業所の日常では

なかなか実施できませんでした。しかし

土曜クラブや・ホリデイ活動などでは、絵手紙・折り紙・手芸・手話ダンスや、趣味活動(民謡)などに取り組んできました。

☆文化活動の意義や内容について、仲間たちの文化的で豊かな生活とは、どうあるべきかを研究していつて欲しい。とのご意見がありました。今後土曜日クラブの展開においても大変重要ですので、今年の課題としていきます。

**Q** 新施設のための土地を取得することができたので、今後はどのように事業が進むのか、何を初めにしていくのか。保護者も高齢になってきたので、早くの実現を希望します。

**A** 前回の理事会でも議題にありました、具体的な事業計画を早く構築することです。

① 仲間の高齢化に対応した事業とは何か。

② 地域に必要とされている事は何か

③ 高齢者のデイサービス・児童関係が提案

されたがその後の展開は・・・等

④ そのようなことと並行して、新施設建設のためには一億円から一億五千万円の資金が必要になるため、具体的な資金計画

が必要です。

以前作りました「将来ビジョン」を修正し、新たに長期・中期・短期計画を作っていきます。

## 20年度決算

収支共に適正に処理されていきました。特徴としては、仲間の利用実績が作業所・ホーム共に良好なことが資金面で大きく影響をしています。

### 赤い羽根共同募金で

冷蔵庫が新品になりました。

第一ホームと第二ホームに、冷蔵庫を頂きました。どちらも10年前に購入したもので、修理したいパッキンなどの部品がなかなか入らない状態でした。今や省エネの時代、この折に買い替えをいたしました。仲間たちの関心事は、自然に氷ができてくることで、これから夏に向かつてばっちりだねー！調理員さんは、野菜室が広くなったことが助かっています。

キッチンが明るくなりました。ありがとうございました。

